

An Introduction to English Law

■An Introduction to English Law とは…？

An Introduction to English Law では主に English Law System (通称 ELS) について、イギリスにおける EU 法の役割や論争などをはじめとして、タイムリーなイギリスの法律問題について、その概要を学習します。講義の担当は English for Legal Purposes と同じく Jackie で、ビデオを用いた説明など様々な工夫を凝らしてくれるので、興味をもって受講できます。講義の初めには前回の講義の復習の意味も込めた早挙手クイズが不定期に出され、通常、講義のおわりにまとめのレジュメが配られます。学生に意見が求められることも頻繁にあるので、程よい緊張感を持って臨むことができます。各自が考え、そして発言する。日本の大学の講義ではなかなか味わえませんが、是非積極的な姿勢で受講してみたいかがでしょうか。

□今年度 An Introduction to English Law で扱ったトピック

Characteristics of English law	Legal professionals	Case law
The origins of the English legal system	The criminal justice system	EU law and EU institutions
Civil litigation	The jury system and lay adjudication	Access to justice and Legal Aid
Statute law	The law of contract	Alternative dispute resolution
The court system	Comparative contract law	Human rights
		Current legal reform

■An Introduction to English Law の講義を受けると…？

事前学習として、日本で留学基礎講座Cを受けてから研修に行くので、IELを受けることでさらにイギリスの法制度を深く理解し、自分のものにすることができます。また講義では日本ではなかなか聞けないイギリスのタイムリーな法律問題なども紹介されるので、日本の法制度とイギリスの制度を比較し、問題点を認識することで、法的な力を身につけることもできます。

またこの講義では特に、聞こえてきた英語を頭の中で日本語に翻訳せず、英語のまま理解する力が身に付きます。英語オンリーの授業をこなしていくうちにこの感覚が養われていくのが手に取るようになります。「英語を英語のまま理解する」という感覚は、実際にケンブリッジに来ることで理解しやすくなるでしょう。

■英会話が不安でも…

英語のレベルについては心配はいりません。日本で受けている留学基礎講座(特にC)の内容を基として授業が進められるので、重要な単語や事項をおさえておけば理解しやすくなります。もしわからないことがあったとしても、Jackie や PA に質問すれば、丁寧に教えてくれます。また、友人同士で議論するのも良いと思います。英語が得意ではなく、予復習に時間がかかるかもしれませんが、友人と分担して予復習をし、乗り越えることができます。

R.N



■An Introduction to English Law を受けての感想

自分がケンブリッジで、勉強する上で一番役に立ったのがこの講義です。この講義を聞いてイギリスの法制度の概要を理解していることが、他の講義で勉強したことを整理する時に役立ったと感じています。これを聞くことで他の授業の復習になったり、確認になったりしたので、とても感謝しています。そういう意味で、講義の中で一番大事だったと思うとともに、ケンブリッジでの留学生活を送る上で、最も助けられた授業でありました。

イギリスの法制度について日本のものと比較すると違う点が多く、なかでも裁判の進め方の違いは特に大きいと思いました。イギリスの法制度では「効率性」が重視されます。これについて説明を受けた時はすぐにはわからず、なじみにくいものでしたが、勉強していくうちに、その重要性を感じました。イギリスでの犯罪の種類や数は多く、これを一つの裁判所ではまかなうことはできません。裁判を開いたとしても判決が出るまでに何年もかかってしまいます。そこで軽犯罪や重犯罪、裁判のやり方などによって裁判所の種類を分け、多種多様な犯罪や訴訟が解決されています。また市民を裁判に参加させ、一つの裁判に参加する法曹の人の数を減らし、代わりに多くの裁判に分散させることによって、裁判の進行を早めることにもつなげています。日本とイギリスの法制度は異なる点が多くありますが、それぞれの国にあった司法制度になっているのだと思いました。

7.5

The main lecture component of the Law Programme is called 'An Introduction to English Law'. I took this course along with other students, so in this article I will give a brief outline of our experience in this class.

The content of this course went over the material we studied in 留学基礎講座 (Legal Studies Abroad preparation Course) C regarding an overview of various aspects of English law. If you study and review it, you can keep up with this class and will be able to improve your English skill. But, of course, you should study basic English law knowledge in Japan.

I think this class is therefore an easier part of the course when compared to other classes. In the guest lectures, for example, the lecturer focuses in detail on very specific areas in English law, which we have not studied as much in Japan.

But, that said, I don't want to suggest that 'An Introduction to English Law' is an easy class. I often thought that if I studied more in Japan, I could understand more of the lecture material. So if you want to take part in the summer course, it is natural that you ought to improve your English skill.

Furthermore, I also thought I ought to have learned more about Japanese Law in Japan before coming to Cambridge. Our teacher often asked us to compare English law with Japanese law and if I knew the answer, I had to translate Japanese law into English and explain it.

Finally, I want to add that if you can't keep up with this class, you shouldn't hesitate to ask for help. Generally speaking, we are Japanese so we don't know English law generally, and the teacher understands that and helps us.

This class is very interesting and can offer us new and useful knowledge. So I hope you'll take part in Cambridge law course and participate actively in this class.

7.5

